



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第3号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合; Digital Repository Federation
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2010-04-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73488
Type	journal
File Information	DRFmonthly_3.pdf, in Japanese





月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第3号

No. 3 April, 2010

【特集1】独仏リポジトリ事情

【特集2】機関リポジトリ担当者になったら

その他の記事

MLの話題から

～旧字体で書かれた情報源、メタデータをどう作る？

DRF参加機関紹介

～福島大学学術機関リポジトリ FUKURO_フクロウ.

特集1 独仏リポジトリ事情

札幌での新生DRF発足1週間前の1/28～2/2に、ドイツ・フランスでリポジトリに関する研究をおこなっているコンソーシアムの調査、意見交換に行ってきました。



左から、Chérifa Boukacem-Zeghmouriさん(Univ. Lille3)、Hélène Prostさん(INIST-CNRS)、Joachim Schöpfelさん(Univ. Liile3)

行ってきた人:

千葉大学附属図書館の
武内八重子さん
(写真は雪の札幌)



フランス

フランスでは、リール第3大学、国立科学研究中心・科学技術情報研究所 (INIST-CNRS) の方々にフランスのIRの現状等について伺いました。業績評価ツールとして非公開のIRや、ナショナルアーカイブ (HAL) を使った共同リポジトリ、HALがメタデータだけハーベストするIR、あるいは本文もあわせてハーベストするIRなど、様々な形のリポジトリが存在するそうです。

OAやリポジトリ用語の多言語語彙集、電子ジャーナルにおけるCOUNTERのような機関リポジトリ統計結果報告様式の標準化といった、具体的な協働のアイデアについて意見交換しました。

ドイツ

ドイツではDINI (The German Initiative for Network Information) という情報コミュニケーションに関するイニシアチブがあり、リポジトリに関する研究プロジェクトもあります。訪問したザールラント大学は、アクセス統計の標準化に取り組むOpen-Access-Statistik (OAS) プロジェクトに参加しているので、利用統計が話題の中心になりました。

複数IRに収録された文献のアクセス数の統合はふむふむと思ったのですが、別のIRに収録された同じ文献はそれぞれのIRに続けてアクセスしたらダブルクリック扱いとすることにはかなり驚きました。

(皆さんはどう思いますか?)



左から、Matthias Müllerさん、Ulrich Herbさん(Saarland Univ.)

特集2 機関リポジトリ担当者になったら

新しい年度が始まりました。人事異動で初めてリポジトリの担当になった方も多いことと思います。機関リポジトリ担当になったらまずは何をすればよいのでしょうか。初めて聞く用語や初めての作業など、戸惑うことばかりではないでしょうか。広島大学で今年度よりリポジトリ担当になった濱さんと、前任者の上田さんの引き継ぎをのぞいてみました。

① 機関リポジトリとは？

上：濱さん、引き継ぎを始めましょうか。

濱：はい。よろしくお願いします。

上：それでは、最初に確認をしておきましょう。機関リポジトリって何のためにやっていると思いますか？

濱：え？漠然としてますね・・・図書館としての資料の収集・保存・利用の方針にそってやるんですか？

上：うーん、そうですね。それも大きな目的の1つです。それに加えて、機関リポジトリは、著者としての研究者をサポートする役割があります。具体的には、研究者の論文をリポジトリから公開することで、より多くの人にその論文を読んでもらえるようにすることです。

濱：著者のためのサービスでもあるんですね。

上：そうです。まずは目的をしっかりと押さえておくことが大事ですね。迷ったときには立ち返りましょう。



レクチャ中

濱さん

上田さん

② 自機関の機関リポジトリとは？

上：それでは、次に広島大学の機関リポジトリの話をします。2006年の10月に正式公開をしたので、今年で5年目です。公開しているコンテンツは、主に雑誌論文や、学内刊行物、学位論文や研究報告書等です。その他に、ユニークな物としては、オリジナルの単行書等も登録しています。

濱：何に重点を置く方針なのですか？

上：それは各機関で違います。広島大学では、広島大学でしか集められないものを、というコンセプトでやってきています。

濱：なるほど。

上：それでは、濱さんは今後、広島大学のリポジトリをどのようにしていきたいと思っていますか？

濱：（遠い目・・・）最初から難しい質問だなあ。まずは、利用者が使いやすいインターフェイスと、先生方が登録しやすくすることかなと思います。そして、いろんな意味で役に立つリポジトリにしていきたいです！

③ コンテンツを集めよう

上：これからは実際の作業の話です。まずは、コンテンツの集め方です。

濱：これ、私も聞きたかったのですが、どうやって先生方の論文を集めているのですか？先生から送ってもらってるのでしょうか？

上：基本的には、こちらから論文の登録やファイルの提供をお願いしています。著者の方から自発的に論文を送ってもらえたらベストなのですが、現実はなかなか難しいです。今は、Web of ScienceやCiNiiから広島大学所属の著者の論文情報を抽出して、著者を確認し、個別に論文の登録やファイルの提供を依頼しています。

濱：どれも大変な労力ですね。

上：そうですね。これがリポジトリの一番大変な仕事だと思います。

濱：この仕事をいかに効果的で効率的にするかが、今後重要ですね。

上：その通りだと思います。業績DBとの連携や研究者への個別インタビューなど、他大学でもいろいろな取り組みをされていますので、広島大学でもできそうなものはどんどん取り入れていきましょう。リポジトリ担当者間での情報交換がとても重要なんです。DRFはその基盤ですね。



北大 野中さん

他大学の同業者は強い味方！わからないことはどんどん聞いて仲良くなる



④ 著作権のことあれこれ

濱：論文をリポジトリから公開するには、著作権の確認が必要と思うのですが、これは、図書館で確認しているのですか？

上：はい。広島大学ではそうしています。実際に調べてみましょうか？そこに先日学内の教員から登録依頼があった「産業ストレス研究」の掲載論文があります。

濱：何から調べたらいいのですか？

上：まず、学会の著作権ポリシーを確認してみましょう。

濱：昨年の学術ポータル研修で勉強したやつですね。

上：そうです。日本の学協会のポリシーが確認できるサイトはどこだったでしょうか？

濱：はい、SCPJです！（一検索中）この論文はポリシーが不明になっていますね。

上：そういう場合は個別に学会に問い合わせをします。

濱：時間のかかる仕事ですね。でもこれをしっかり押さえていくことが、きっと後で役に立つんですね。

特集2 機関リポジトリ担当者になったら

⑤ スキャニング

上 : 次はスキャニングです。紙媒体でもらった論文などは、スキャンしてPDFファイルを作成します。ここからの説明は、スキャニングを担当している森岡さんにしてもらいます。それでは、森岡さんよろしくお願ひします。

森 : 森岡です。よろしくお願ひします。紙でいただいた論文などは、まず背を切断してばらします。その後、カラーページがないか、折り込みがないかなどをチェックします。その後、モノクロとカラーに分けて、それぞれ300dpiの解像度でスキャンします。その後、ページの乱れやゆがみの修正、トリミングなどを行います。PDFの処理が終わったら、OCRをかけます。

濱 : OCRって何ですか？

森 : OCRは文書の画像からコンピュータが認識できる文字情報を変換する装置のことですね。スキャニングしたPDFファイルは画像なので、文字情報はありません。これにOCRで文字情報を付加することで、検索エンジンからもコンテンツの全文を検索することが可能になります。

上手なPDFの作り方を
教わっています。



森岡さん

⑥ メタデータの付与

上 : 次はメタデータの作成ですね。

濱 : メタデータって何ですか？

上 : 図書でいう目録と思ってもらえばいいです。

濱 : 書名とか著者名などを入力するのですか？

上 : 登録する資料（コンテンツ）によって多少、入力項目に違いがありますが、雑誌論文であれば、論文名、著者名、キーワード、抄録、雑誌名、巻号、ページ、出版者、権利情報などを入力します。メタデータの付与とファイルのアップロードがすんだら、登録は終了です。

濱 : (作業中) はい、登録したものが見られました！

⑦ 研究者とのコミュニケーション

濱 : 広島大学ではアドバイザーの先生がいっぱいいますよね。どんな活動をしているんですか？

上 : 昨年度は、研究内容や、研究成果の発表媒体、発表方法、研究に必要な情報の入手方法などについて聞きました。各分野での研究方法は様々ですので、リポジトリへコンテンツを登録してもらうには、その分野に応じたアプローチをすることが必要だと実感しました。

このように、研究者と話をすることで新しい視点が生まれてきたり、ニーズを把握することも出来ますので、反映させたり、今後もっと積極的にこのような活動をしていきましょう。リポジトリは研究者へのサービスです。研究者とのコミュニケーションを大事にしていきたいと思います。

⑧ 説明会のコツ

引き継ぎ中に尾崎さんがやってくる。

尾 : 濱さん、来週、新任教員オリエンテーションがあるんだけど、そこでリポジトリの説明をしてくれない？デビューデビュー。

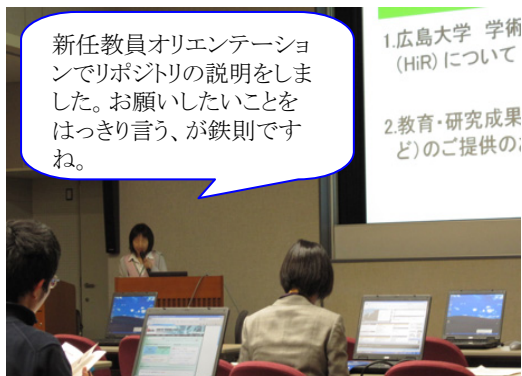
濱 : えっ私ですか？ はい、わかりました…どんな風に説明したらいいでしょう？ (かなり不安)

尾 : たぶんリポジトリのことをよく知らない先生たちだと思うので、簡単なリポジトリの説明と、コンテンツ登録のお願いの、2本柱かな。5分くらいなので簡潔にね。担当者の名前と連絡先を言うのを忘れないように。

濱 : 時間もないので、要点を絞って説明しないとイケないですね。チラシやパンフレットも配りましょう。

新任教員オリエンテーションでリポジトリの説明をしました。お願ひしたいことをはっきり言う、が鉄則ですね。

1.広島大学 学術(HiR)について
2.教育・研究成果(と)のご提供の;



⑨ 参考になるサイト・メーリングリスト

濱 : リポジトリに関連する情報ってどこから入手したらいいですか？

上 : まずは、DRFのメーリングリストですね。DRFはWikiサイトもあって参考になる情報が載っています。UsrComプロジェクトが初心者向けの掲示板を運用していますし、リポジトリシステムを試すこともできます。後は、国会図書館のカレントアウェアネス・ポータルも国内外の情報を入手できますし、各大学のリポジトリ担当者がブログやウェブでいろいろな情報提供をしていますので参考にしてみてください。

在任1ヶ月のつぶやき...

著作権の許諾状況を調査したり、論文をPDF化してメタデータを付与したりといった地道で骨が折れる(心も折れそうになる)作業があるかと思えば、広報のため人前でプレゼンテーションもする。リポジトリの仕事は管理業務とサービス業務の間の子と言ったところでしょうか。

あと、DRFのメーリングリストで飛び交う宇宙語(略称や用語など)を解説していただいたり、HPで調べたりして、ようやく片言の日本語に見えてきました(笑)

リポジトリの拡大とともに自分の世界も広がっていきたくと思っています。みなさまどうぞよろしくお願いします！[広島大学 濱知美]

広島大学のIR担当
上: 森岡さん・上田さん
下: 濱さん・尾崎さん



旧字体で書かれた情報源、メタデータをどう作る？

DRF
メーリング
リストから

[drf:1690] 「tilte」に旧字体のままデータを入力。「title.alternative」に新字に置き換えたデータを入力しています。

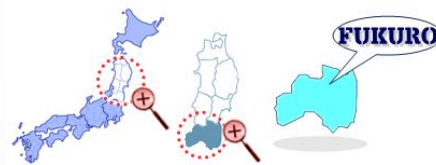
[drf:1692] タイトルはどちらかと言うと簡単で、著者の標記をどうするか悩んでいます。

[drf:1695] JAIROでは現在、各研究者業績DBと研究者リゾルバーを介して連携した、IDによる著者名寄せを検討中です。いずれ著者表記の揺れはそちらで解決されることを想定しています。

【参考】

- Dspaceの「漢字異体字の統合検索を実現する」
<http://www12.ocn.ne.jp/~zuki/japanization/dspace142/unified/unified.html>
- E-repositoryの漢字統合インデックス

DRFメーリングリストバックナンバーは、<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drfl/> からご覧になれます。

DRF
参加機関
紹介FUKURO_フクロウ:
福島大学学術機関リポジトリ

Q1. 担当課担当係と運営体制をおしえてください

本学の情報全般を担当する情報メディア委員会のもとに設置されている学術・教育情報専門委員会の中に3つの作業部会（IR推進部会、IR学術コンテンツ部会、IRシステム構築・運用部会）を立ち上げました。それぞれの部会には教員と図書系職員・情報系職員を配置してそれぞれが分担してリポジトリを構築しました。平成22年度より委員会体制の見直しと事務組織の改変が行われ、企画・運営は情報メディア委員会、学術情報課が実務を担当します。受入・目録業務を兼務している1名が主担当ですが、何かあれば作業部会メンバー5人が駆けつけて応援する体制となっています。

Q2. 導入システムは何ですか？

DSpace 1.4.2です。平成18年度導入予定でしたが、事務用システムや総合情報処理センターの研究用システムなどの調達があったために、平成19年度に図書館システムの更新と併せてリポジトリシステムを導入しました。

Q3. 公開時の苦労話や秘蔵話、他機関と違った活動などをぜひ。

リポジトリシステムは、導入当初うまく機能しませんでした。導入したメーカーのSEもDSpaceの詳細が不明だったため、リポジトリ担当者としてSEで内容を調査するとともに、打合せを重ねて改善しました。結局ともに機能するのに約半年もかかり大変苦労しました。

Q4. FUKUROのチャームポイントは？（ここが気に入っているとあったところを）

FUKURO_フクロウ_の愛称です。リポジトリの試験公開に先立ち、学内に一般公募を行ったところ、学生から応募されたものが愛称として採用されました。フクロウは、学問や研究、知恵の象徴といわれ、さらに福島の「フク」をも含んでいることから図書館にふさわしいとの評価を得たものです。FUKURO_フクロウ_が棲む知の森を創るために、コンテンツ登録を行っています。

Q5. DRFに期待することは何ですか？

DRFの各種行事に参加して感じることは一体感でしょうか。学術情報の流通を本気で考えている仲間が大勢いるということは大変心強いもので、DRFには、その先導役であってほしいと願っています。また、各館での要員養成のために、今後も新人向け研修にご尽力願いたいと思っています。



FUKUROトップページ
<http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/>



左から 担当の河野さん、安斎さん、小椋さん、門間さん

次号
予告

【特集1】DRF「新」参加機関 一挙紹介
【特集2】Springerトンネルってトンネル？
～オープンアクセスのバリエーション
ほか、「川柳 ILL編」等を予定

応募
企画

川柳第2弾 お題は「IRの愛称」
gekkandrf@gmail.com までお送り下さい
※第1弾「ILL」に多数のご応募ありがとうございました。
次号でどーんとご紹介しますのでお楽しみに！

編集後記：新年度に入り、リポジトリ業界にも新しいメンバーが増えましたね。気候の安定しない4月でしたが、CSI委託事業の申請も始まり、疲弊した体にムチ打って（泣）新しい1年のスタートです。「こじつけで 語呂合わせでも 呼べば愛称」川柳お待ちしております。（尾）

月刊DRFでは、みなさまからののお便りをお待ちしています。gekkandrf@gmail.com

月刊DRF第3号 平成22年4月30日発行 デジタルリポジトリ連合